

## 野菜・花き類で長距離飛来性害虫が多発のおそれ

～発生状況を確認し、早期に防除対策を行ってください～

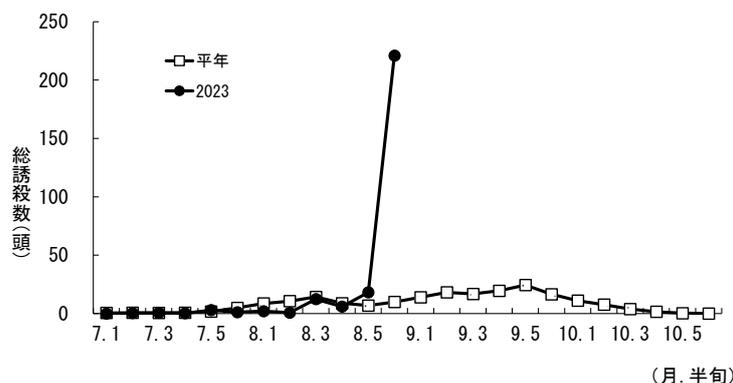
### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) オオタバコガの防除適期決定ほ（3地点）のフェロモントラップにおける誘殺数は8月6半旬に急増し、8月1～6半旬の総誘殺数は260頭（平成59頭）で多かった（図－1）。
- 2) ハスモンヨトウの防除適期決定ほ（2地点）のフェロモントラップにおける8月1～6半旬の総誘殺数は5,142頭だった（表－1）。
- 3) シロイチモジヨトウの防除適期決定ほ（2地点）のフェロモントラップにおける8月1～6半旬の総誘殺数は1,057頭だった（表－1）。また、8月後半の秋冬どりねぎ巡回調査（10地点）におけるシロイチモジヨトウの食害株率は2.6%（平成0.7%）で高かった（図－2）。
- 4) 8月31日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は高いと予報されている。
- 5) 以上のことから、今後、野菜・花き類で上記の長距離飛来性害虫の幼虫による食害が多発し、被害の拡大が懸念される。

### 2. 防除対策

- 1) オオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウは、広食性で幼虫が多く、多くの作物を食害する。
- 2) 発生状況を確認し、オオタバコガによる被害部位は取り除き幼虫を捕殺する（図－3、4）。ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの卵塊や若齢幼虫の群生が見られる葉は取り除き、幼虫を捕殺する（図－5）。
- 3) オオタバコガは幼虫の齢期が進み、果実や茎、花蕾などに食入すると薬剤がかかりにくくなる。ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウは中齢期以上の幼虫になると、ほ場に分散して食害するようになり、被害が大きくなる（図－6）。  
また、老齢幼虫に対しては薬剤の効果が低下するので若齢期での防除を徹底する。
- 4) 抵抗性害虫の出現を回避するため、同一系統（RACコード）の薬剤は連用しない。また、薬剤への感受性の低下が疑われる場合は、本害虫を対象とした防除薬剤として使用しない。  
なお、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウでは、ジアミド系剤（RACコード：28）などの一部の薬剤に感受性の低下が疑われる事例があるため注意する。

### 3. 資料



図－1 オオタバコガの防除適期決定ほ（3地点）におけるフェロモントラップ総誘殺数の推移

表-1 ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの防除適期決定ほ（各2地点）におけるフェロモントラップ総誘殺数の推移（2023）

	(月. 半旬)	8. 1	8. 2	8. 3	8. 4	8. 5	8. 6	合計
ハスモンヨトウ	(頭)	290	626	869	1,539	1,319	499	5,142
シロイチモジヨトウ	(頭)	31	54	82	66	197	627	1,057

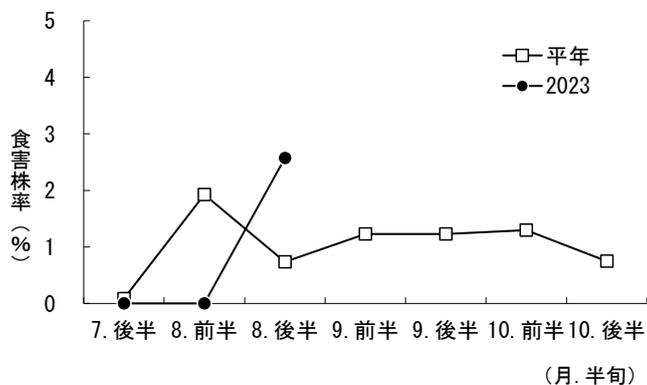


図-2 秋冬どりねぎ巡回調査（10地点）におけるシロイチモジヨトウ食害株率の推移



図-3 オオタバコガによるトマトの食害



図-4 オオタバコガによるきくの食害



図-5 シロイチモジヨトウ若齢幼虫の群生（ねぎ）



図-6 ハスモンヨトウ中齢幼虫によるねぎの食害

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所

TEL 018-881-3660

秋田県農業試験場

TEL 018-881-3326

掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>